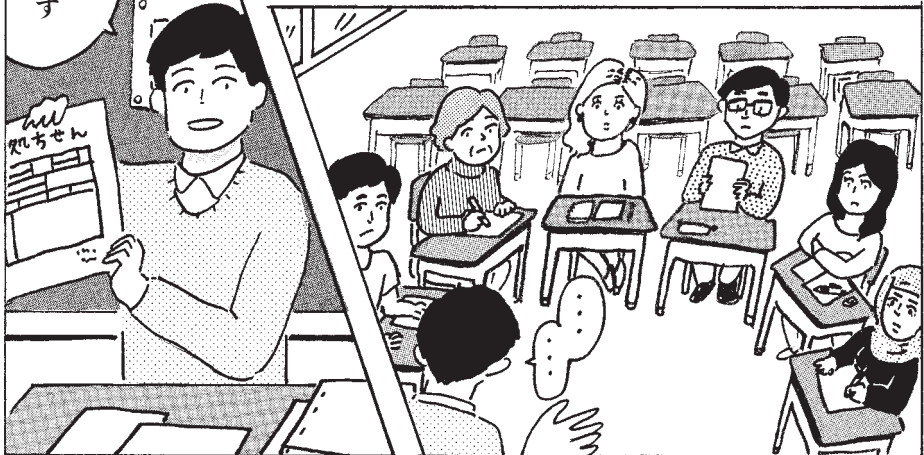
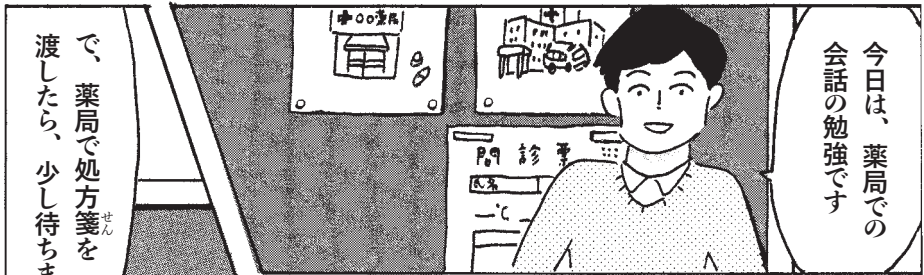
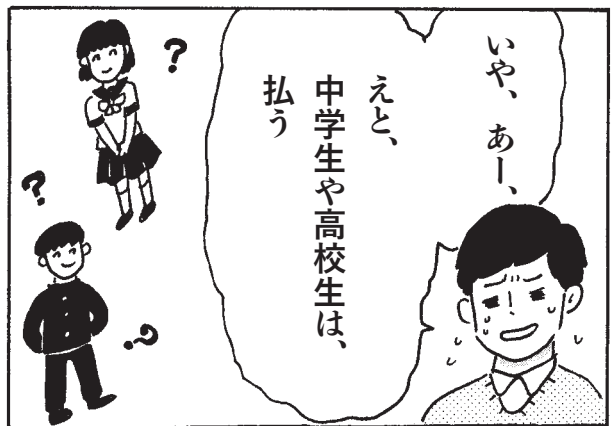


# え、そんなこと急に言われても









## 第⑥話 え、そんなこと急に言われても

**タスク1** 医療費について質問されたとき、この教師は「(小学生になったら)払うかもしれない。はい、はい」と言った後、次の話題に進みました。なぜ、このようにしたと思いますか。できるだけ、さまざまな理由を考えてみてください。

**タスク2** この時、質問をした学習者は、どんなことを考えたと思いますか。

**タスク3①** あなたは、すぐに答えることが難しい質問をされたことがありますか。どんな質問でしたか。その時、どうしましたか。

**タスク3②** このようなことが起こった場合、どんな対処法があるか他の人の考えを聞き、メモしましょう。

## 第6話について

第6話では「学習者からの質問に教師は答えたほうがいいのか」について考えます。

### 1 教師が次の話題に移る理由

教師は授業中、学習者からの質問に対して十分な答えを示したようには見えないのに、新たな話題へと移ることがあります。その理由には次のようなことが考えられます。

- 1 十分に答えたかと判断し、この話題は終わってよいと思った。
  - 2 これ以上、一人の学習者とやりとりを続けるのはよくないと考えた。
  - 3 日本語の授業としては大事なことでないと判断し、話題を切り上げた。
  - 4 この件に関して正確な知識を持っていないので、次の話題で別の知識を提供し、先生らしさを示そうとした。
- ご自身の考えと同じものはありませんか。同じような

思いで、話題を変えたことはありませんか。では、こういったことが起きたとき、学習者はどう考えるでしょうか。

- 1 知らないからごまかしたな。先生なら、もっと準備しておくべきだ。
- 2 若い先生だから、子どもの医療費のことは知らないよな。
- 3 日本人だからといって、何でも知っているわけではないのだな。
- 4 ま、いや。あとで自分なりに調べてみよう。きっとわかるだろう。

実は学習者の反応もさまざまです。教師たるものどんな質問にも答えられるようにしておくべきだと考える人もいますし、日本語以外について答えられないことがあるのは当然だと思う人もいます。さらに、日本語に関する質問であつたとしても、とっさに答えられない場合があるといった寛容な態度を持つ人もいます。「日本語教師」あるいは「教師」に対する意識や期待は、その人が経験した教育や社会によって培われるものですし、また、それは新たな学習経験、教育経験によって変化していきます。

## 2 質問に答えられないとき、どうすればいいか

では、実際に、すぐには答えることができない質問をされたとき、どのような対処法をとればいいでしょうか。「次までに調べてくる」と宣言する、その場で他の学習者に尋ねてみる、スマホを使ってみんなで調べてみようと  
言う等々、方法は多様です。教授法や学習観の変遷によ

り、教師の役割も変わってきました。学習者とどんな関係を築きたいか、どのような教室を作り、どのように学習してほしいか等、教室の方針・目標を念頭に、自分の対処法をあれこれと試してみたいかがでしょうか。

(金田智子)